

天文学とプラネタリウム

第53回



今月のお題

銀河時代のコミュニケーション



いつかは会おう、遠い宇宙のまだ見ぬ誰かと最初にコンタクトを取るの、我々…！かもしれない？



www.tenpla.net

高梨直紘 (国立天文台 広報普及室)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

暑かった夏も過ぎ、だんだんと秋の星座も夜空に探しやすくなってきました。秋の夜空の見どころも色々ですが、秋の四辺形として有名なベガス座には、天文学史上もっとも有名な星のひとつが含まれているのを皆さんはご存知ですか？その星の名は、ベガス座51番星。そう、太陽系以外で初めて惑星の検出が報告された星です。この星の発見以降、続々と系外惑星が発見され、現在ではその数は300個を越えました。そうなると天プラ的に気になるのは、きっとそのうち始まるであろう地球外文明とのコミュニケーションです（多少の飛躍は許してください）。今回のコラムでは、そんな時代を妄想してみました。

あきふかき となりはなにをするひとぞ

天文学の基本的な考え方の1つに、「宇宙原理」というものがあります。これは、宇宙全体を大きく見渡したときに、特殊な場所はなにもなく、同じような世界が広がっているという仮定です。なんと大雑把な話ですが、今のところこの仮

定に矛盾した現象は見つかっていないので、どうやらそれなりに信じられる仮定のようなのです。この宇宙原理、拡大解釈すればつまりこういう事ではないでしょうか。曰く「地球は特殊じゃないだろうから宇宙人だっているだろうし、その宇宙人達はきっと似たようなことを考えているに違いない」。

それなら話は簡単です。きっと向こうの星にも観望会をやって、講演会をやって、サイエンスカフェをやって、トイレトペーパーを作っている宇宙人がいるに間違いありません。彼らが次に考えることは間違いなく、「まだ見ぬ宇宙人宛にメッセージを送りつけてみよう」です。なぜなら、私が今そう考えているから。

ここまではまあ、当たり前の発想なんです。ここからは意外と難しいのです。無尽蔵に時間やお金、エネルギーがあるわけではありませんから、もっとも効率が良い方法でメッセージを送るべきだし、相手も同じようにメッセージを送ってきていることでしょう。しかし、どのタイミングで、どのような方法で、どのような内容のメッセージを送るべきかは、まだ正しい答えにたどり着けていないと見るべきです。な



ミュンヘンのBMW本社ビル。そこはかとなくATPIに似ている？(撮影:平松)

ぜなら、未だに検出に成功していないからです。

そこで出番となるのが、天プラのようなグループです。天文学者なんぞはしよせんー握りの人間に過ぎません。多くの人をつなぎ、ユニークで、まさにこれしかないというアイディアを提案できるのは、天文学者ではない人たちの力によるところが大きいのではないかと、そんな風に思うのです。そんなことを私が思っている以上、先方も同じ事を考えているに違いありません。みんなでその方法を妄想するイベントなど、今後どんどん取り組んでみたいですね。そんな事を想像させる秋の夜空、皆さんもぜひ楽しんでみて下さい。